

「シェイクスピアと映像——日本」（第 58 回ビビュロス研究会、平成 5 年 6 月）

日本におけるシェイクスピア映画に対する評価及び研究状況について発表した。シェイクスピア映画をシェイクスピアの変容として捉え、積極的に捉えていくべきであると論じた。特に黒澤明の『蜘蛛巣城』や『乱』については海外の評価にもついて触れ、日本人のアイデンティティについても論じた。配布資料は高い評価を受けた。日本におけるシェイクスピア映画受容史と研究史を独自の視点から整理した。発表タイトルが映像となっているのは、ビデオ、LD、DVD、TV、映画などを総合的に考えたからである。